

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第210集

中金井遺跡群 下金井遺跡

長野県佐久市小田井下金井遺跡発掘調査報告書







2012.12

株式会社 大建
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は株式会社 大建による平成24年度（仮称）小田井地区宅地造成工事に伴う中金井遺跡群下金井遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社大建 代表取締役 増田悌造
- 3 調査主体者 佐久市中込3056
佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地
中金井遺跡群 下金井遺跡
佐久市小田井字下金井719番2
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H－竪穴住居址 F－掘建柱建物址
D－土坑 M－溝跡 P－ピット
- 2 スクリーントーンの表示は以下のとおりである。
遺構
地山断面  焼土  粘土 
遺物
黒色処理  石器使用痕  須恵器断面 
- 3 挿図の縮尺は以下のとおりである。
遺構－竪穴住居址・掘建柱建物址・土坑・ピット 1/80 溝跡 1/80・1/100
遺物－土器・石器1/4、白玉1/1、紡錘車1/2
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 6 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
- 7 遺物表中の [] は推定値、〈 〉 は残存値を表す。

目 次

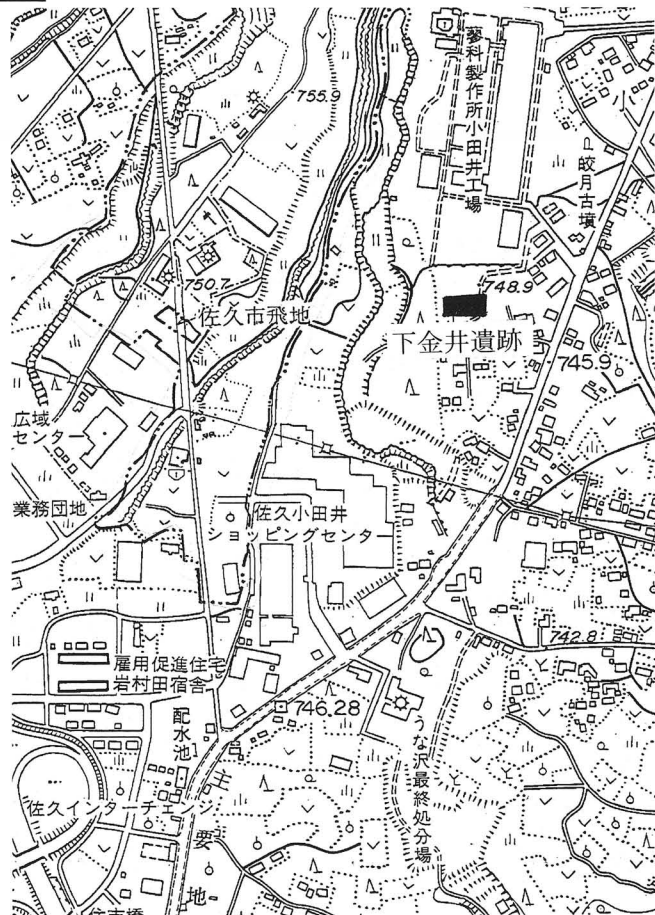
例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査日誌	1
第3節 調査体制	2
第4節 発見された遺構と遺物	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	2
第1節 自然環境	2
第2節 周辺遺跡	2
第3節 基本層序	5
第Ⅲ章 遺構と遺物	5
第1節 竪穴住居址	5
第2節 掘建柱建物址	13
第3節 土坑	13
第4節 溝跡	14
第5節 ピット	15

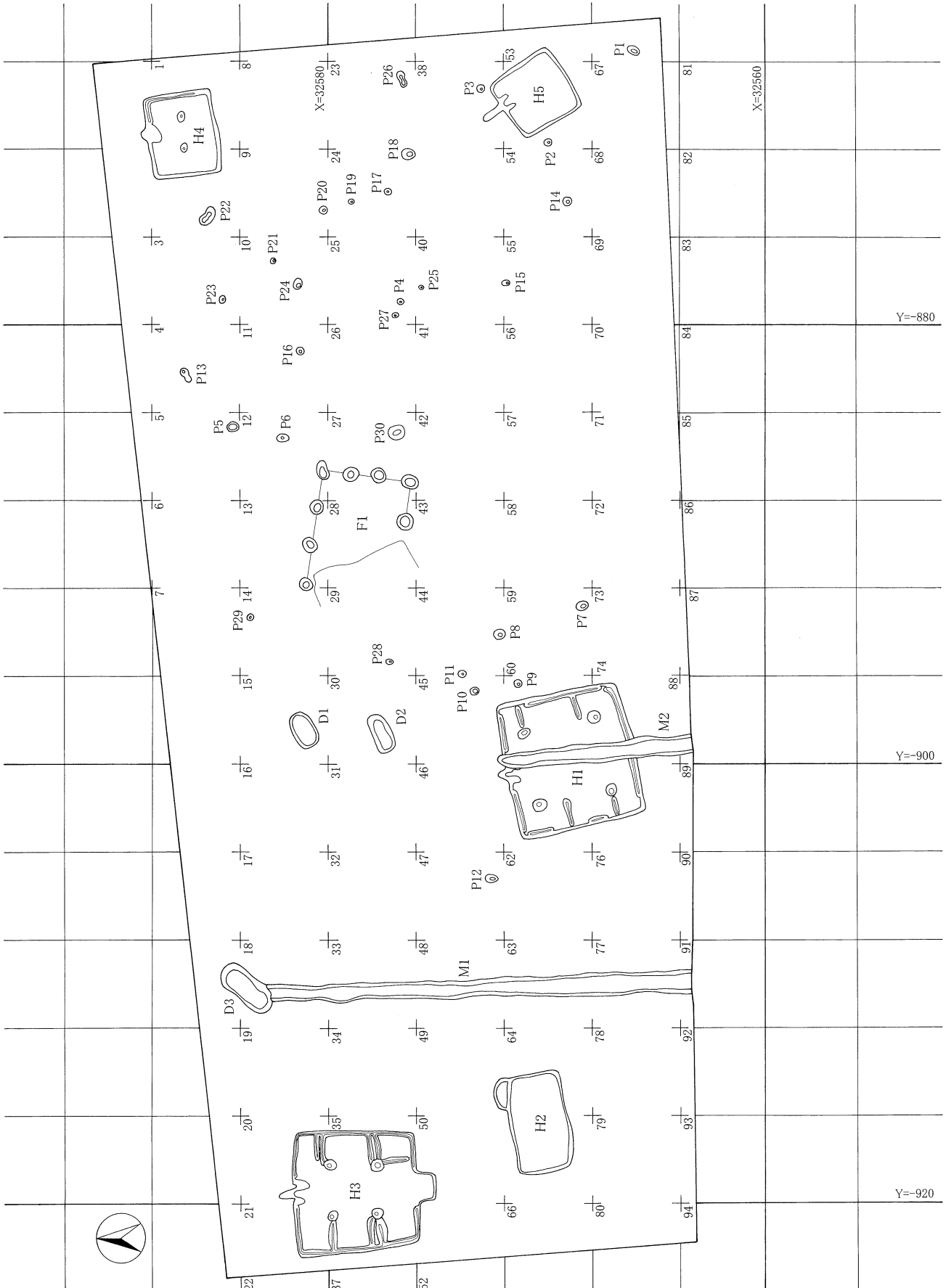
写真図版



調査区位置図 (1:100,000)



調査区位置図(1:10,000)



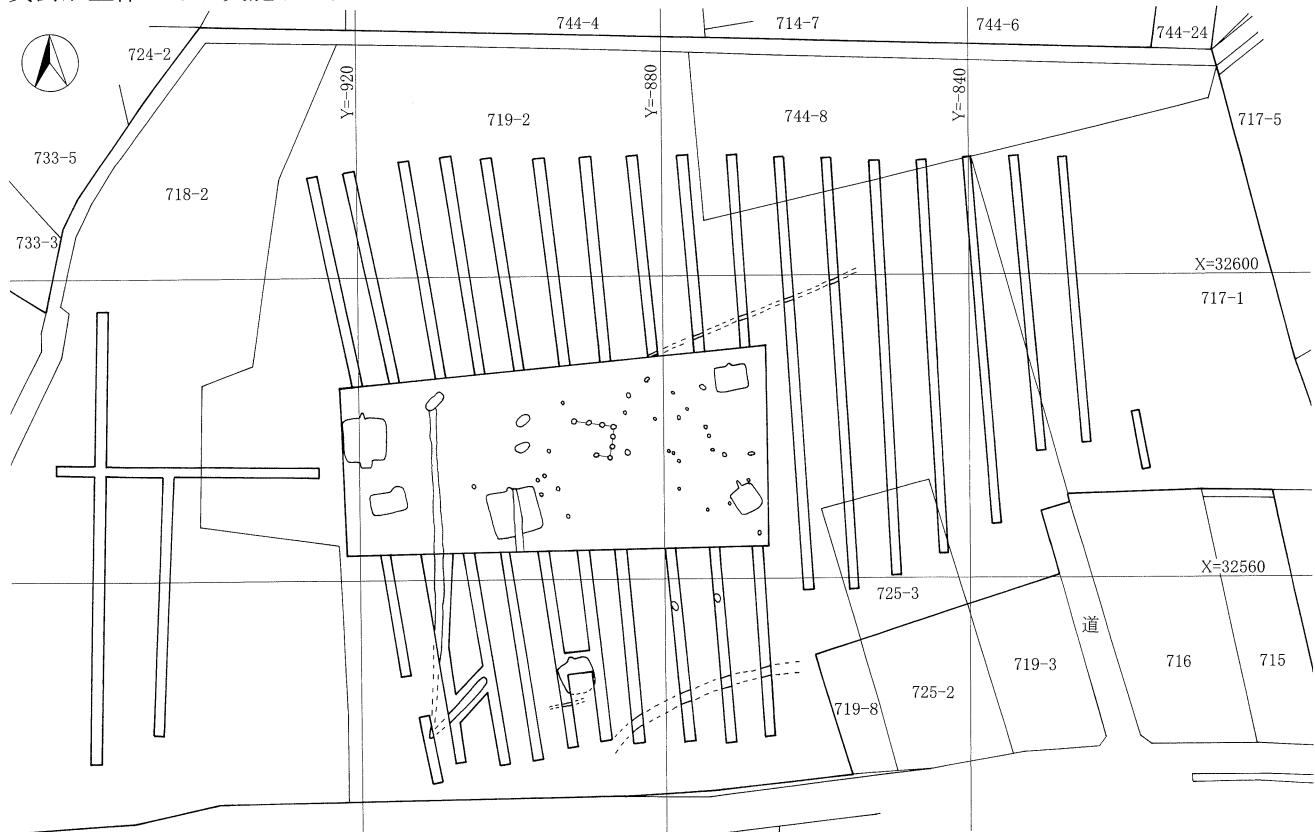
遺構配置図 (1:250)

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査の経緯

中金井遺跡群は佐久市北端に位置し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷である田切りに挟まれたおよそ南北方向に細長い台地上に展開する、縄文時代から中世に至る複合遺跡である。開発地域は遺跡群中央付近の台地西端に接した21,000㎡を超える範囲で、調査対象地となる下金井遺跡はこの中央付近に位置する。標高は749m内外を測る。

今回、株式会社 大建による宅地造成工事が行われることとなり、平成23年度に試掘調査を実施した。その結果、地表下0.2～1mにて竪穴住居址等の遺構が発見された。これにより、開発主体者側と協議を重ね、道路部分及び確認面が浅い地域で発見された遺構について、記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。



試掘トレンチ・遺構配置図(1:1,000)

第 2 節 調査日誌

現場作業

- 7月12日～ 文化財保護協議 道路部分にかかる遺構及び検出面までの深度が浅い地域の発掘調査を実施し、その他の地域に所在する遺構については埋土保存とした。
- 7月25日 埋蔵文化財委託契約。
- 8月 2日～ 機材準備・搬入。
- 8月 6日～ 開発主体者側の重機による表土除去作業開始。ハウス・トイレ設置。
- 8月 8日～ 8月30日 調査員による発掘調査。検出作業・遺構掘り下げ・図面作成・写真撮影・機材撤収・整備作業・開発主体者側による基準杭設定作業。

室内整理作業

- 8月29日～11月30日 遺物洗浄・注記・接合・実測・写真撮影・遺物整理、図面修正・写真整理・遺構遺物トレース・図版作成・原稿作成。
- 12月 報告書刊行。

第3節 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会	教育長	土屋盛夫			
事務局					
社会教育部長	伊藤明弘				
文化財課長	吉澤隆				
文化財調査係長	三石宗一				
文化財調査係専門員	須藤隆司	小林眞寿	羽毛田卓也	富沢一明	上原学
文化財調査係	並木節子	神津一明	久保浩一郎		
嘱託職員	林幸彦				
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			

調査担当者

調査員	上原学					
	浅沼勝男	江原富子	小幡弘子	風間敏	狩野小百合	木内勇
	小井戸秀元	小林百合子	清水律子	滝沢三男	田中ひさ子	土屋武士
	中嶋フクジ	比田井久美子	日向昭次	広瀬梨恵子	武者幸彦	
	柳澤孝子	渡辺長子	渡辺学			

第4節 発見された遺構と遺物

遺構 竪穴住居址－5軒 古墳時代 掘建柱建物址－1棟 土坑－3基 溝跡－2条 ピット－30個

遺物 土師器（坏・高坏・甕・壺・甑）石器・石製品（紡錘車・白玉・すり石・敲石・台石）須恵器 縄文土器

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。今回調査を実施した下金井遺跡は、北部地域の浸食谷（田切り）に挟まれた南北方向に細長い台地西端に近い、標高749m内外を測る湯川右岸河岸段丘上に位置する。

第2節 周辺遺跡

縄文時代－東方では、湯川対岸の左岸河岸段丘上に立地する棚畑遺跡(40の東方地図外)から中期の竪穴住居址・土坑及び前期～後期の遺物が発見され、小規模ではあるが集落の存在が確認されている。本調査地域を含む湯川右岸では、南の栗毛坂遺跡群南端台地上で上信越自動車道建設に伴い長野県埋蔵文化財センターが行った調査によって、早期末～前期末を主体とする石器関連遺構と推測される集石群が発見された。また、流通団地建設に伴い調査が行われた長土呂遺跡群聖原遺跡(18)からは落とし穴状の土坑が確認されている。中金井遺跡群を含めた湯川右岸周辺では、今のところ集落を思わせる遺跡の存在は発見されていない。

弥生時代－中金井遺跡群内周辺で遺物の出土は認められるが、弥生時代の集落と呼べる遺跡は発見されていない。南の湯川下流域では段丘に沿って、北西の久保遺跡、西一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西八日町遺跡

等、中期後半から後期の遺跡が多数発見されているため、本遺跡においても東方の湯川段丘上に遺跡が存在する可能性は考えられる。

古墳時代—調査区南に島原古墳(4)・からむし古墳(9)が存在する。北には皎月古墳(3)が存在している。古墳はいずれも円墳である。前期の集落は、東方の湯川対岸に位置する棚畑遺跡(40の東方)、腰巻遺跡(49)、下小平遺跡、池端遺跡から住居址等の遺構が発見されている。これに対し、湯川右岸の中金井遺跡群周辺で集落と呼べる遺跡の発見は認められない。南方の湯川右岸に栄えた弥生の集落は古墳前期になると激減し、湯川左岸に小規模な遺跡が認められる程度となる。しかし、この状況も住居内にカマドが導入され始める中期後半になると発見される遺跡も増加傾向に転じ、後期にかけて湯川右岸の台地上にも聖原遺跡(17・18・19)、上芝宮遺跡(28)、下曾根遺跡(28)など大規模な遺跡が形成されてくる。96,900㎡の調査を実施した聖原遺跡(18)では155軒の住居址が調査されている。

奈良・平安時代—周辺の台地に展開する遺跡からは多くの遺構が発見されている。南西の浸食谷を隔てた栗毛坂遺跡群前藤部遺跡(12)からは北カマドを持つ8～9世紀及び南東コーナー付近にカマドを持つ平安末頃と考えられる住居址が10軒発見された。さらに谷を隔てた聖原遺跡(18)の発掘調査では663軒の住居址が調査されている。出土遺物中には、暗文によって『佛』『甲斐国山梨郡大野郷戸口』等と記載された土師器鉢、『伯万私印』と浮き彫りされた石製印、皇朝十二銭12枚『和同開珎1・神功開寶1・隆平永寶4・富壽神寶3・承和昌寶2・長年大寶1』等、貴重な遺物も多数出土している。この他上芝宮遺跡(28)、下曾根遺跡(31・32)、曾根新城遺跡(33、34地図外)、上久保田向遺跡(21・22・23)からも多くの遺構が発見されている。

中世—この時代の代表的な遺跡は城館跡であり、佐久平一帯において、平城・山城と考えられる地域は多数存在する。本調査区の周辺地域だけでも南西の曾根城、御代田町の小田井城、湯川対岸の延寿城(41)、白岩城(44・45・46)、平尾城跡(42の東方枠外)等が存在し、これらは田切り地形によって形成された台地または山そのものを利用し築城されている。本遺跡の台地北端一帯に展開する金井城(5)は、発掘調査によって遺跡の詳細が広い範囲で確認されている佐久地域でも代表的な城郭である。城域は20万㎡を越える広さを持ち、築城は16世紀代と考えられている。発掘調査は、昭和63年～平成2年にかけて工場団地造成に伴い約80,000㎡の調査が実施された。二郭の一部、三郭、北郭の大部分、外郭の1/3以上の構造が明らかとなり、城内からは竪穴建物址、土坑、掘立柱建物址、堀・溝状遺構、土塁関連遺構が発見されている。

No.	遺跡名	旧	縄	弥	古	歴	中	近	備考
1	中金井遺跡群下金井遺跡				○				
2	中金井遺跡群			○	○	○			
3	皎月古墳				○				
4	島原古墳				○				
5	金井城跡						○		1988(S63) 佐久市第1集
6	金井城跡IV						○		2011(H23) 佐久市第200集
7	荒田・上金井遺跡						○		1987(S62) 佐久市センター第16集
8	跡坂遺跡			○	○	○			
9	からむし古墳				○				
10	栗毛坂遺跡群			○	○	○			
11	西曾根遺跡 I				○	○			1989～1992(H1～4) 佐久市第18集
12	栗毛坂遺跡群 前藤部遺跡					○	○		1996・97(H8・9) 佐久市第68集
13	栗毛坂遺跡群 上曾根遺跡					○	○		1990(H2) 佐久市第6集
14	栗毛坂遺跡群 A区		○	○	○	○	○		1986(S61) 県埋文センター報告書12
15	栗毛坂遺跡群 B区		○	○	○	○	○		1987・88(S62・63) 県埋文センター報告書12
16	栗毛坂遺跡群 C区						○		1986・87(H61・62) 県埋文センター報告書12
17	長土呂遺跡群		○	○	○	○	○		
18	長土呂遺跡群 聖原遺跡				○	○	○		1989～1995 (H1～7) 佐久市第103・122・126集
19	長土呂遺跡群 聖原遺跡 II				○	○			1989(H1) 佐久市第10集
20	枇杷坂遺跡群			○	○	○			
21	枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡 II						○		1989・90(H1・2) 佐久市第41集
22	枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡 III					○	○		1992(H4) 佐久市第30集
23	枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡 IV		○				○		1992(H4) 佐久市第25集
24	西曾根遺跡 IV						○		2000(H12) 佐久市年報10
25	曾根城遺跡		○	○	○	○			
26	芝宮遺跡群			○	○	○	○		
27	芝宮遺跡						○	○	1992・93(H4～6) 県埋文センター報告書第39
28	上芝宮遺跡・下曾根遺跡						○	○	1997～99(H9～11) 佐久市第88集
29	曾根城遺跡 III							○	2002 (H13) 佐久市第108集
30	曾根城遺跡 IV							○	2003 (H15) 佐久市第133集
31	下曾根遺跡 VIII						○	○	2004(H16) 佐久市第133集
32	下曾根遺跡 IX						○	○	2004(H16) 佐久市年報14
33	曾根新城遺跡							○	
34	曾根新城遺跡 V			○				○	1993(H5) 佐久市第28集
35	周防畑遺跡群			○	○	○	○		地図外27の西方
36	近津遺跡群				○	○	○		"
37	鋳師屋遺跡群				○	○	○		
38	棚畑遺跡			○		○	○		1993・94 (H5・6) 地図外43の東方
39	芋の原遺跡群			○	○	○	○		
40	上長坂遺跡群			○	○	○	○		
41	延寿城跡							○	
42	上の原遺跡群			○	○	○	○		
43	横根古墳群							○	
44	白岩城跡							○	1988(S63) 佐久市「白岩城跡」
45	白岩城跡 II							○	2000(H12)
46	白岩城跡 III							○	2009(H21) 佐久市第197集
47	宿古墳						○		
48	塚畑古墳						○		
49	腰巻遺跡						○	○	1987(S62) 佐久市センター第15集
50	西大久保遺跡群 西大久保遺跡 II						○	○	1987(S62) 佐久市センター第15集

周辺遺跡表 1

No.	遺跡名	旧	縄	弥	古	歴	中	近	備考
51	西大久保遺跡群 西大久保遺跡Ⅲ	○			○	○			1998(S63) 佐久市第63集
52	東大久保遺跡群	○	○	○	○				
53	西大久保遺跡群	○	○	○	○				
54	宮の西古墳				○				
55	西赤座遺跡Ⅰ				○	○			2002(H14) 佐久市第112集
56	赤座垣外遺跡Ⅰ	○	○	○	○				1990(H2) 佐久市第11集

No.	遺跡名	旧	縄	弥	古	歴	中	近	備考
57	中久保田遺跡				○	○	○		
58	大井城跡				○	○	○	○	
59	岩村田遺跡群				○	○	○	○	
60	濱石古墳				○				
61	濱石遺跡				○	○	○		

周辺遺跡表 2



周辺遺跡位置図 (1:12,000)

第3節 基本層序

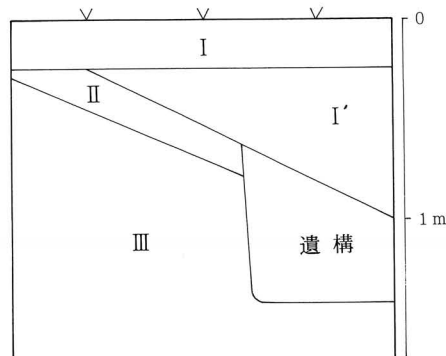
遺跡は、浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた『田切り』地形の細長い台地上に立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面に現在の表土が覆っている。今回調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

I層は層厚20~30cmを測る表土で、碎石等を含む埋土された整地層である。

I'層は整地層直下に残存した耕作土等の旧表土で層厚1~80cmを測る。

II層は層厚0.1m内外を測る表土と黄褐色軽石流間の漸位層である。本層の下層付近で遺構の存在が僅かに認められる。

III層は浅間山の噴出物である第二軽石流、黄褐色ロームである。遺構確認はこの上面で明確に確認できる。

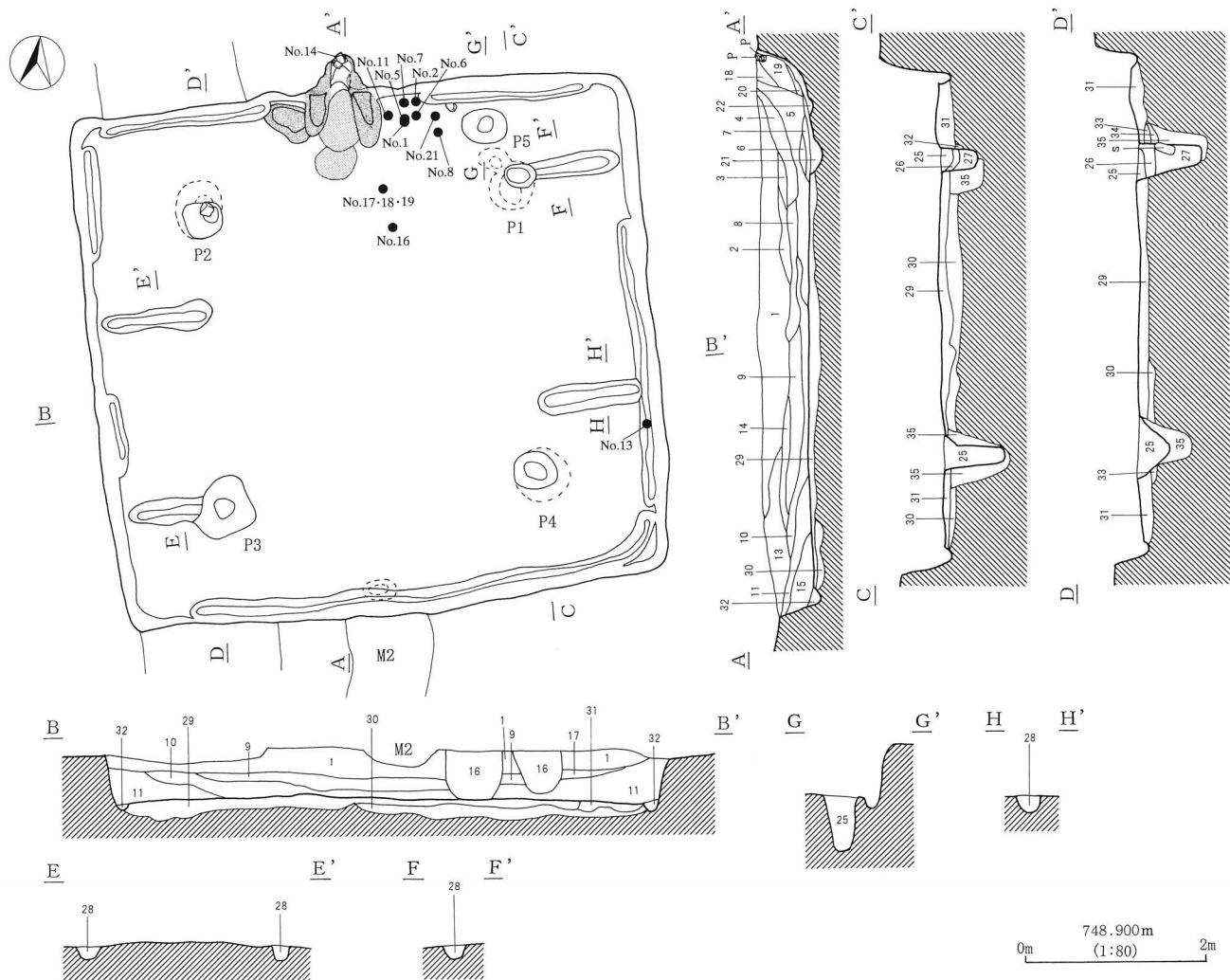


基本層序模式図

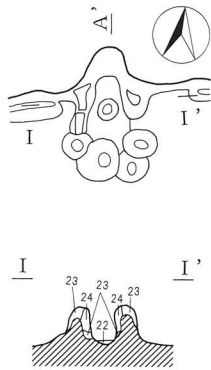
第III章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 (H)

H1号住居址



H1号住居址実測図 (1)



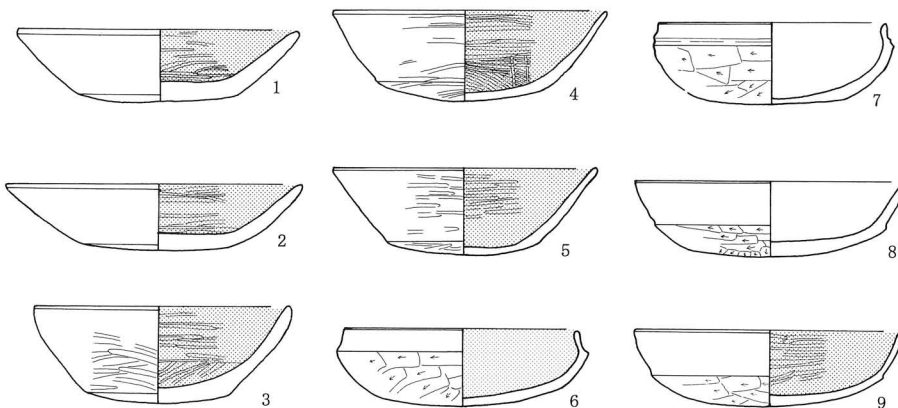
- 1 黒褐色土層(10YR2/3)軽石・ローム・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層(10YR2/2)軽石・ローム・炭化物含む。
- 3 灰褐色土層(7.5YR4/2)白色粘土・粘土・炭化物多。軽石・ローム含む。
- 4 黒褐色土層(10YR3/1)粘土多量・炭化物・焼土・軽石含む。
- 5 暗褐色土層(10YR3/3)粘土・焼土少量・軽石・炭化物・ローム含む。
- 6 にぶい黄褐色土層(10YR7/3)粘土層。
- 7 にぶい赤褐色土層(5YR4/3)焼土・灰・炭化物含む。
- 8 黒褐色土層(7.5YR2/2)粘土粒・炭化物・軽石・ローム含む。
- 9 にぶい赤褐色土層(5YR4/4)焼土・粘土粒・ロームブロック・軽石・炭化物含む。
- 10 黒褐色土層(10YR2/2)軽石・ローム・炭化物・粘土粒少量含む。

- 11 褐色土層(7.5YR4/3)軽石・ローム・焼土・炭化物含む。
- 12 褐色土層(7.5YR4/4)ローム多量・軽石・炭化物含む。
- 13 黒褐色土層(7.5YR3/2)ローム・軽石・焼土・炭化物含む。
- 14 褐色土層(7.5YR4/4)ローム多・軽石・炭化物含む。
- 15 暗褐色土層(7.5YR3/4)ローム・軽石含む。
- 16 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石含む。
- 17 黒褐色土層(10YR2/3)ロームやや多・軽石・炭化物含む。
- 18 にぶい褐色土層(7.5YR5/3)粘土粒・粘土ブロック多く含む。
- 19 灰褐色土層(7.5YR4/2)焼土少量含む。しまりなし。
- 20 極暗褐色土層(7.5YR2/3)灰主体・焼土・炭化物含む。しまりなし。
- 21 赤褐色土層(2.5YR4/6)焼土層。
- 22 褐色土層(7.5YR4/4)ローム主体・炭化物・粘土粒含む。
- 23 明褐色土層(7.5YR7/1)粘土層。
- 24 にぶい褐色土層(7.5YR6/3)粘土層・熱により赤みを帯びる。
- 25 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・軽石含む。しまりなし。
- 26 黒褐色土層(10YR2/2)ローム・軽石含む。しまりなし。
- 27 暗褐色土層(10YR3/4)ローム多く・軽石・粘土粒含む。しまりなし。
- 28 暗褐色土層(10YR3/4)ローム・軽石含む。しまりなし。
- 29 にぶい黄褐色土層(10YR5/4)ローム主体。硬質。(床)
- 30 にぶい黄褐色土層(10YR6/4)ローム主体。軽石含む。
- 31 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石含む。硬質。(床)
- 32 にぶい黄褐色土層(10YR4/3)しまりなし。(周溝)
- 33 黒褐色土層(10YR2/3)硬質。
- 34 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・軽石含む。ややしまりあり。
- 35 にぶい黄褐色土層(10YR4/3)ロームブロック・軽石含む。ややしまりあり。

H1号住居址実測図(2)

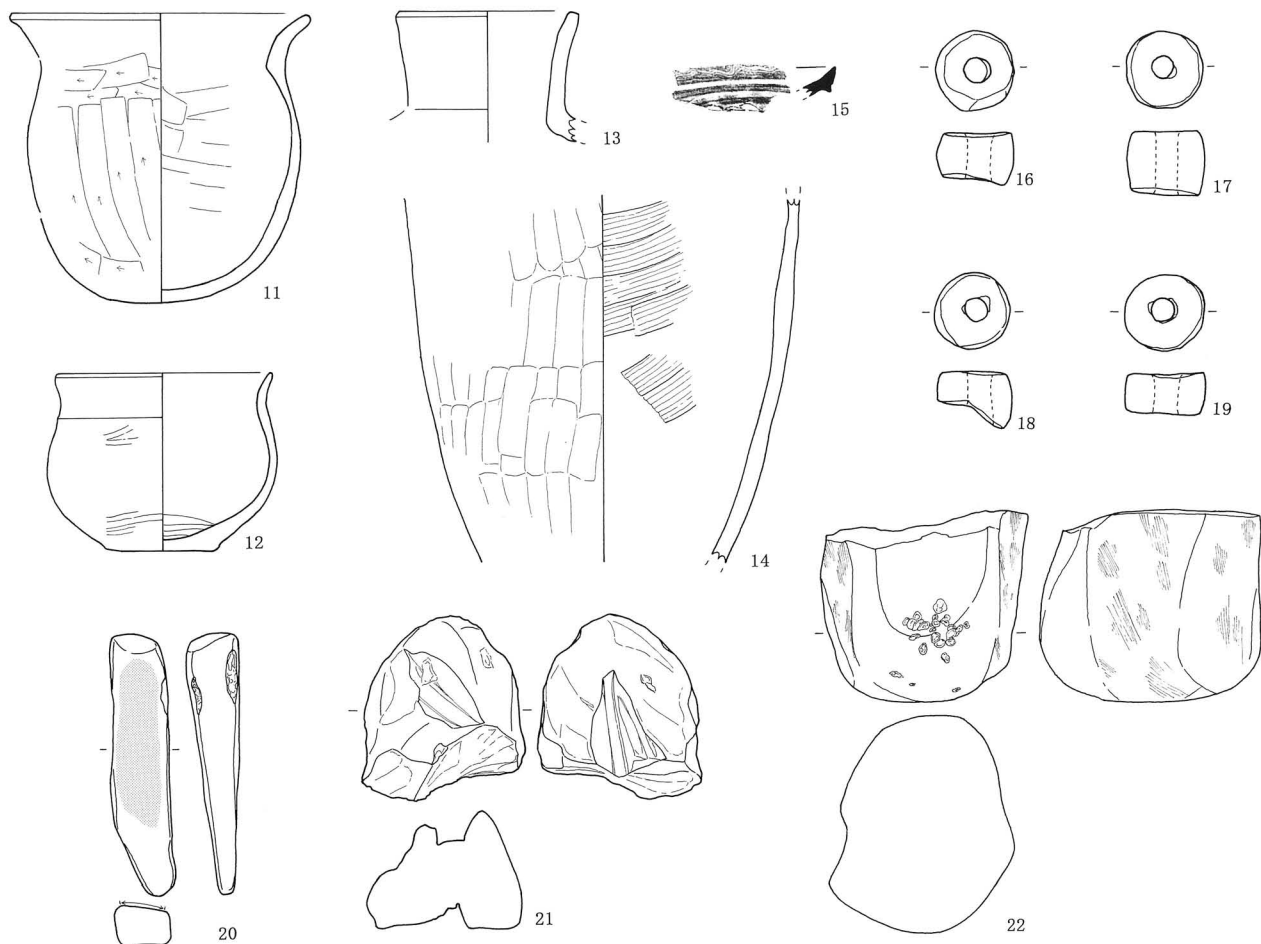
遺構は75グリッドに位置し、M2に切られる。規模は南北5.2m、東西6.2m、検出面から床面までの深さは最深で0.6mを測る。平面形態は方形である。床面はやや凹凸は認められるが全体的に平坦硬質である。壁際には幅15~20cm、深さ10cm内外の溝が掘り込まれている。また、西及び東壁から中央に向かって長さ1~1.2mの溝が4本存在し、2本は支柱穴につながる。間仕切り溝と思われる。ピットは床面上で5個確認できP1~4が支柱穴である。P5は形態的にピット状であるが位置的に貯蔵穴的な役割があった可能性も考えられる。カマドは北壁中央に構築され、両袖の一部及び火床から煙道への立ち上がりが残存していた。袖部は削り出した地山のロームを基礎として、白色の粘土で覆っており、石材は利用していなかった。煙道は焼土の堆積した火床奥からやや急な角度で検出面まで立ち上がり、煙道の出口を覆うような状態で土器片が出土した。掘方は中央部が浅く、周辺部がやや深く掘り込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・小型甕・甔・壺、須恵器壺?、石製白玉、すり石、加工痕を持つ軽石が出土した。大半は土師器で、須恵器は2片である。カマド東脇から多くの土器が積み重なるように出土した。



H1号住居址実測図(1)

本住居址は、平底気味で大きく開き直線的に口縁に至る形状及び体部途中に明瞭な稜を持つ土師器坏、直線的な胴部を持つ長胴甕から古墳時代後期7世紀としたい。



H1号住居址遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)	備考
1	土師器	坏	14.7	8.4	3.8	外面ヘラケズリ 内面黒色処理	95	良	10YR5/4 にぶい黄褐色	
2	土師器	坏	15.4	7.8	3.6	外面ヘラケズリ 内面黒色処理 内面有段	85	良	7.5YR6/4 にぶい橙色	
3	土師器	坏	13.4	7.4	5.2	外面ミガキ 内面黒色処理	80	良	10YR3/1他 黒褐色	
4	土師器	坏	14.3	9.2	4.7	内面黒色処理	60	良	7.5YR7/4 にぶい橙色	
5	土師器	坏	[13.8]	[8.2]	4.6	外面ミガキ 内面黒色処理	50	良	7.5YR4/2他 灰褐色	
6	土師器	坏	12.1	丸底	4.1	内外面黒色 口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ	95	良	2.5Y4/1 黄灰色	
7	土師器	坏	11.8	丸底	4.3	口辺横ナデ 外面体部ヘラケズリ 木葉痕? 内面ナデ	60	良	2.5Y3/1 黒褐色	
8	土師器	坏	14	丸底	4	口辺横ナデ 外面体部ヘラケズリ 内面ナデ ミガキ	90	良	5YR6/6他 橙色	
9	土師器	坏	13.8	丸底	4	外面口辺横ナデ 体部ヘラケズリ 内面ミガキ 黒色処理	70	良	10YR4/1 褐灰色	
10	土師器	長胴甕	21.1	8	37.2	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	80	良	7.5YR6/3他 にぶい褐色	
11	土師器	甕	13.3	丸底	15.2	口辺横ナデ 胴部外面・底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	60	良	10R7/4 にぶい黄橙色	
12	土師器	小型甕	11.3	5.8	9.5	口辺横ナデ 胴部外面・底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	85	良	5YR6/4他 にぶい橙色	
13	土師器	壺	9.6	-	(6.8)	口辺ミガキ	口縁	良	7.5YR5/4 にぶい褐色	
14	土師器	長胴甕	-	-	(19.2)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部	良	7.5YR5/3 にぶい褐色	
15	須恵器	壺?	-	-	-	外面櫛描波状文 口唇部横沈線	口縁破片	良好	10YR4/1 褐灰色	

H1号住居址遺物観察表 (1)

番号	器種	器形	長さcm		幅cm		厚さcm	重量g	色調	備考
			長径cm	短径cm	短径cm	高さcm				
16	石製品	白玉	1	1	0.7	1.39	10Y8/1他 灰白色	孔径0.35		
17	石製品	白玉	1	1	0.9	1.7	10Y8/1他 灰白色	孔径0.3		
18	石製品	白玉	1	1	0.8	1.01	7.5Y8/1他 灰白色	孔径0.3		
19	石製品	白玉	1	1	0.5	1.08	7.5Y7/1 灰白色	孔径0.3		
20	石器	すり・敲石	13.8	3.4	2.7	162.64	10YR4/1 褐灰色	正面にすり面。右側に敲打痕		
21	石器	軽石製品 砥石	9.7	8.6	7.1	141.54	10YR8/1 灰白色	正裏に深い条痕		
22	石器	台石?	(10.2)	(11)	(11.4)	(1596.93)	2.5Y7/1 灰白色	上部欠損、正面に敲打痕。両側は擦痕か?		

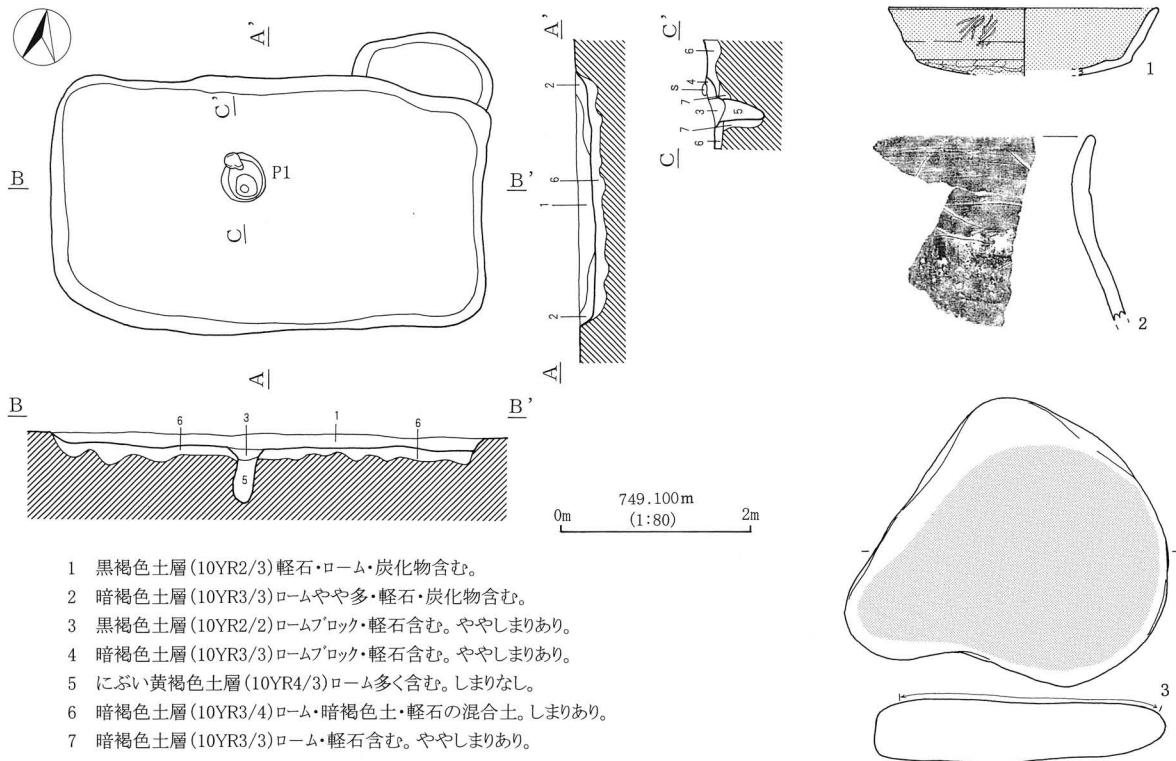
H1号住居址遺物観察表 (2)

H2号住居址

遺構は65グリッドに位置する。規模は南北2.7m、東西4.6m、検出面から床面までの深さは最深で0.2mを測る。平面形態は北東コーナー付近に張り出し部を持つ東西方向に長い隅丸長方形である。床面は硬質で、ピットは中央に1個確認できた。壁は床からすり鉢状に立ち上がる。カマドは存在しなかった。形態的に竪穴状遺構的な性格を持つ。

遺物は土師器の坏・甕、石器が出土した。土器は破片である。土師器坏は丸底で体部途中に明瞭な陵を持ち、口辺部外面に緩やかな段を有する。甕は破片であるが、H1出土の甕に類似する特徴が認められる。

本住居址の時期は、H1ほど資料が存在しないため7世紀と特定できないことから古墳時代後期、6世紀後半から7世紀と幅を持たせたい。

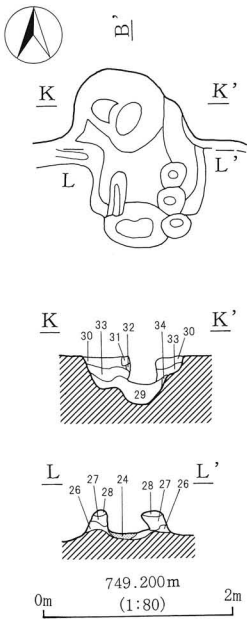
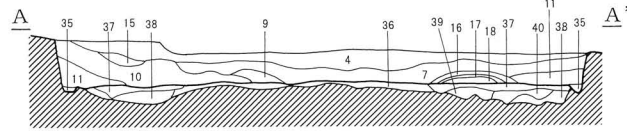
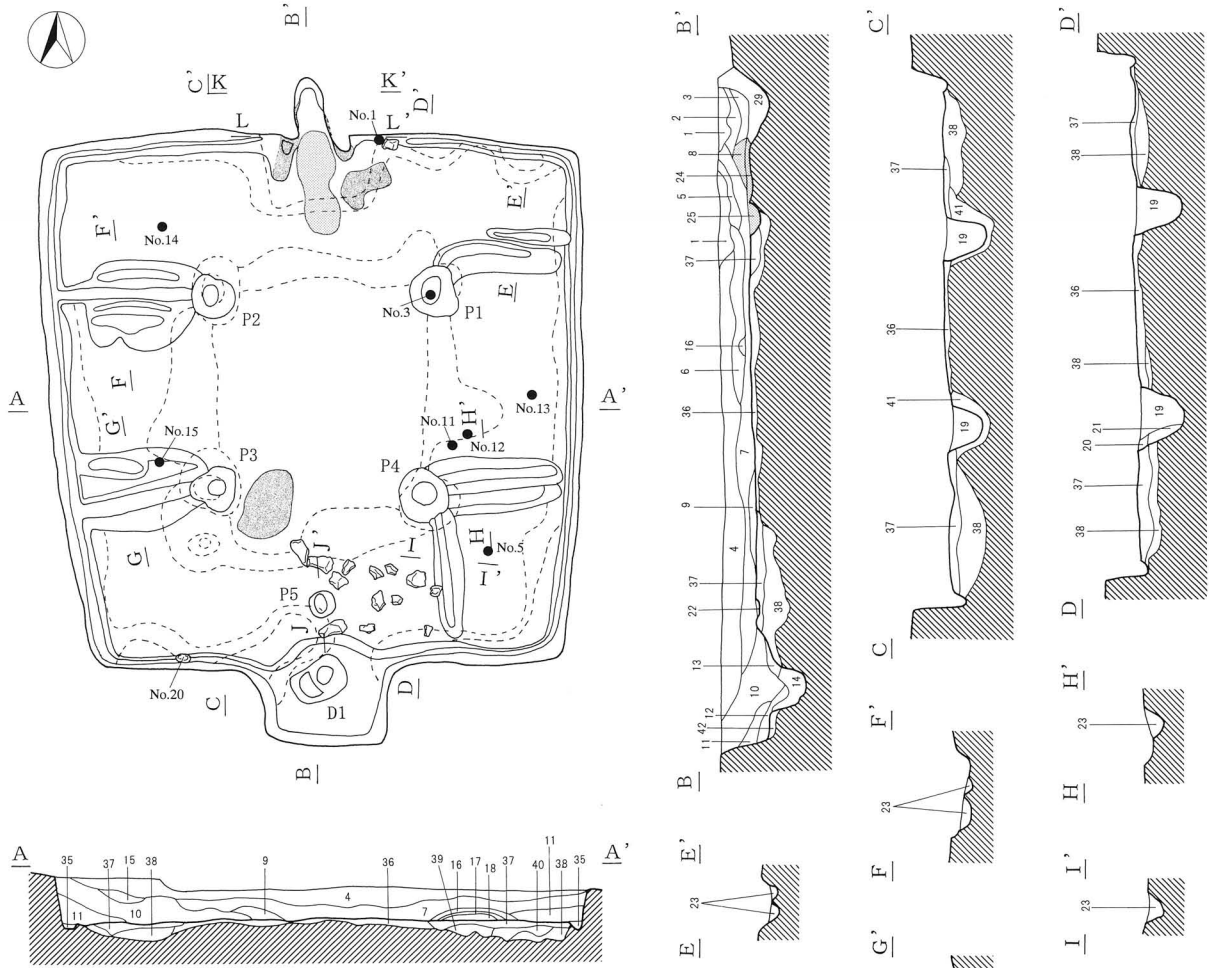


H2号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様		残存率・部位	焼成	色調(外面)	備考
1	土師器	坏	[14.2]	丸底	(3.6)	内外面黒色 口辺横ナデ・有段 体部ヘラケズリ		15	良	2.5YR3/1 黒褐色	
2	土師器	甕	—	—	(9.7)	口縁外面横ナデ 口縁内面ハケナデ 胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ		口縁～肩部	良	10YR7/3 にぶい黄橙色	
番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	色調	備考			
			長径cm	短径cm	高さcm						
3	石器	台石?	15.2	16.9	3.7	(1263.91)	5Y6/1 灰色	正面が使用面か			

H2号住居址遺物観察表

H3号住居址

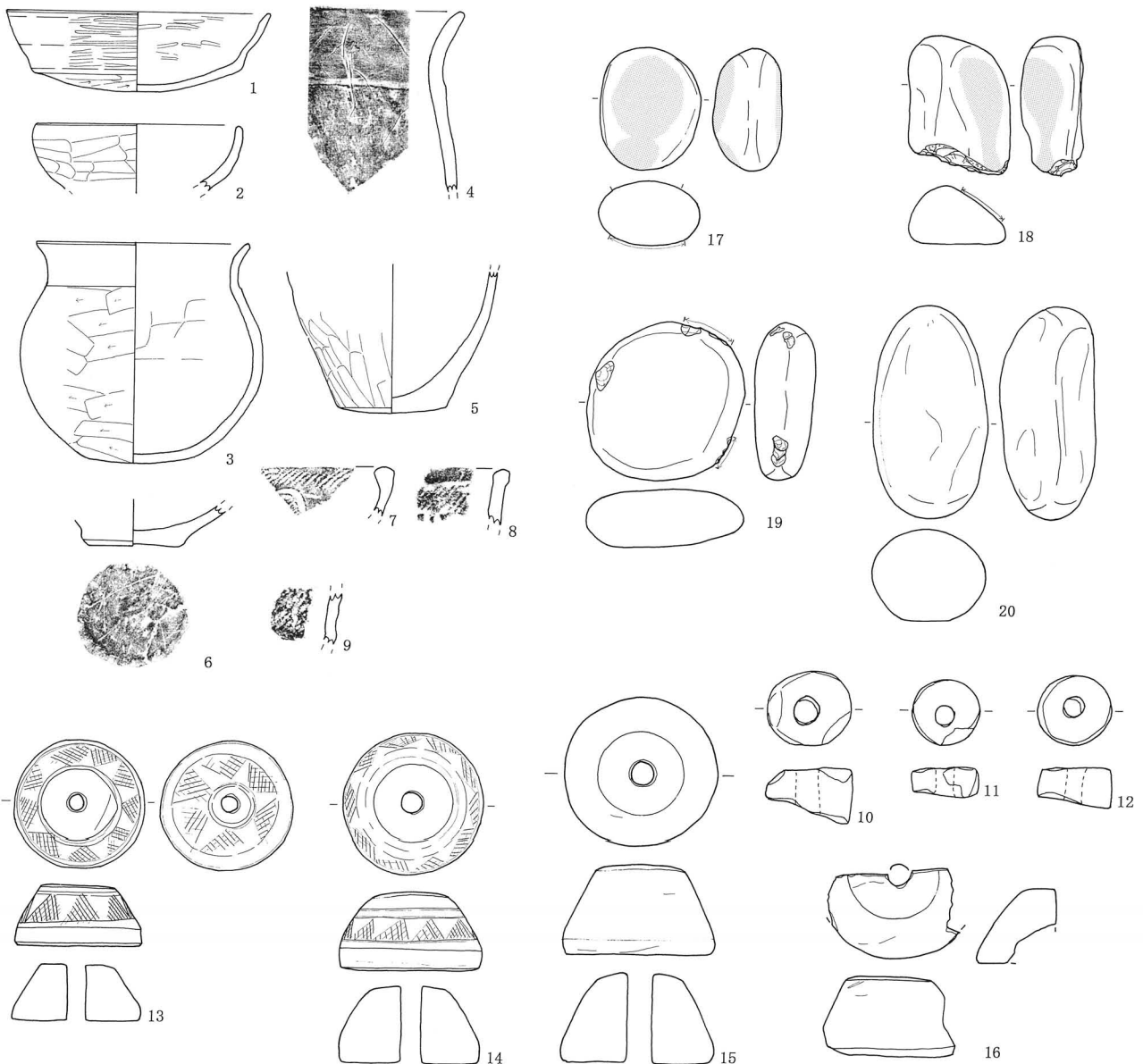


- 1 褐灰色土層 (7.5YR6/1) 灰・粘土・軽石含む。
- 2 褐色土層 (7.5YR4/3) 灰・粘土粒・軽石含む。
- 3 褐灰色土層 (5YR5/1) 灰多・粘土粒・ローム・軽石含む。
- 4 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石・炭化物含む。
- 5 明褐灰色土層 (10YR7/1) 粘土主体。暗褐色土・軽石含む。
- 6 褐色土層 (7.5YR4/3) ローム・軽石・粘土塊含む。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・粘土粒・炭化物含む。
- 8 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土層。
- 9 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石含む。
- 10 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石・炭化物含む。
- 11 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・炭化物含む。
- 12 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多・軽石・炭化物含む。
- 13 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多・軽石含む。
- 14 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多・軽石含む。しまりなし。
- 15 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多量・軽石含む。
- 16 黒褐色土層 (10YR2/3) 灰・炭化物主体。
- 17 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 粘土・灰主体。
- 18 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・焼土含む。
- 19 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石含む。しまりなし。
- 20 暗褐色土層 (7.5YR3/4) ローム主体。しまりあり。
- 21 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ロームと暗褐色土の混合土。ややしまりあり。
- 22 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石含む。しまりなし。
- 23 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。しまりなし。
- 24 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土層。
- 25 にぶい赤褐色土層 (2.5YR4/4) 焼土層。
- 26 明褐色土層 (7.5YR5/6) ローム主体。
- 27 褐色土層 (7.5YR4/3) ローム・粘土・炭化物含む。しまりあり。
- 28 灰褐色土層 ((7.5YR4/2) 粘土層。
- 29 褐色土層 (7.5YR4/3) 焼土・炭化物含む。しまりなし。
- 30 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム層。
- 31 にぶい赤褐色土層 (5YR5/3) 粘土層。
- 32 にぶい黄褐色土層 (10YR7/2) 粘土層。
- 33 褐色土層 (7.5YR4/4) 粘土粒・炭化物含む。
- 34 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土ブロック。
- 35 灰黄褐色土層 (10YR4/2) しまりなし。
- 36 にぶい褐色土層 (7.5YR5/4) ローム主体。硬質。
- 37 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。硬質。
- 38 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックやや多く含む。
- 39 黒褐色土層 (10YR3/2) 軽石・ローム含む。
- 40 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。軽石・暗褐色土含む。
- 41 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石少量含む。
- 42 褐色土層 (7.5YR4/4) 硬質。

H3号住居址実測図

遺構は35グリッドに位置する。規模は南北5.6m（張り出し部除く）、東西5.6m、検出面から床面までの深さは最深で0.5mを測る。平面形態は方形で、南壁中央に方形の張り出し部を伴う。床面は全体的に硬質で土間状を示し、部分的に凹凸は認められるもののほぼ平坦である。壁際に幅10~15cm、深さ5~10cmの溝が掘り込まれている。ピットは床面上で5個確認でき、P1~4が主柱穴である。D1は張り出し部の中央付近に掘り込まれ、深さは床面から50cmを測る。

主柱穴から壁に向かい間仕切りと思われる溝が東西及び南北方向に存在した。東西方向の溝は平行して2本掘り込まれており、間仕切りの付け替え等の作業が行われた可能性も考えられる。カマドは北壁中央に構築され、両袖の一部及び火床から煙道の立ち上がりが残存していた。袖部は削り出した地山のロームを基礎として粘土で覆っており、石材は利用されていなかった。両袖に挟まれた部分には南北1m、東西45cmと広い範囲に焼土が堆積していた。煙道部は火床から壁外60cmの位置にて急な角度で立ち上がり、検出面に至る。煙道壁面には部分的に地山に貼り付けた粘土が残存し、熱によって一部焼土化していた。カマド掘方では煙道部周辺のローム層直下に人為的と思える円形の掘り込みが存在し、検出面で認められたロームは何らかの理由でピット上に埋められた可能性が考えられた。円形の掘り込みは、位置的にカマドを再構築した際の掘り込みの可能性も窺えるが断定できない。住居の掘方は主柱穴4本を結んだ中央付近がやや方形に高



H3号住居址遺構実測図

く、周辺が深く掘り込まれていた。中央の掘方が浅い部分は貼り床のみで周辺の深い部分は貼り床直下に暗褐色土、黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・小型甕、石製白玉・石製紡錘車・すり石が出土し、混入品として縄文土器が3片含まれていた。紡錘車は床面付近から3個、P2から欠損品が1個出土しており、2個の表面には鋸歯文（三角形）の文様が刻まれていた。土師器は丸底で体部途中に明瞭な陵を持ち、口辺部に緩やかな段を有する。甕は破片だが胴部が直線的などH1出土甕の特徴に共通性が認められる。

本住居址は、体部途中に明瞭な陵を伴い、口辺に段を有する坏が存在し、甕にH1出土の土器と厚み・胎土等の共通性が認められたため、6世紀後半から7世紀としたい。

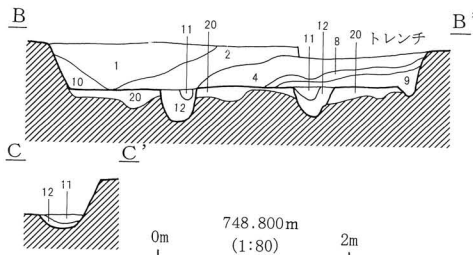
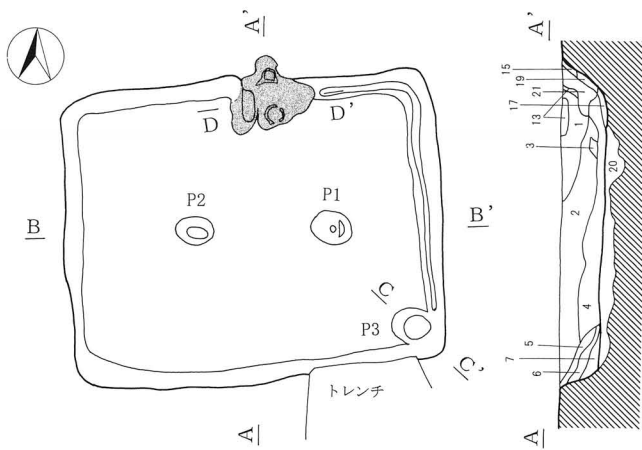
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様		残存率・部位	焼成	色調(外面)	備考
1	土師器	坏	15.3	丸底	4.7	口辺内外面横ナデ・有段 外面ヘラケズリ		90	良	7.5YR4/1 褐灰色	
2	土師器	鉢	[12.2]	—	(3.9)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ		25	良	5YR5/6 明赤褐色	カマド出土
3	土師器	甕	[12.4]	6.4	13	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ		75	良	7.5YR6/2他 灰褐色	
4	土師器	甕	—	—	(10.5)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ハケ目ナデ		口縁～胴部	良	7.5YR7/6他 橙色	
5	土師器	甕	—	6.4	(8.3)	外面胴部・底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ		胴下半～底部	良	2.5YR5/3 にぶい赤褐色	
6	土師器	甕	—	5.4	(2.4)	外面胴部ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部木葉痕		底部	良	2.5YR5/6 明赤褐色	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面縄目・弧状沈線 内面ナデ		口縁破片	良	7.5YR7/4 にぶい橙色	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁折り返し 外面縄目 付線文に刻み		口縁破片	良	7.5YR6/4 にぶい橙色	
9	縄文土器	深鉢?	—	—	—	外面縄目 内面ナデ		破片	良	7.5YR6/4 にぶい橙色	
番号	器種	器形	長さcm 長径cm	幅cm 短径cm	高さcm 高さcm	重量g	色調	備考			
10	石製品	白玉	(1.2)	(1.1)	(0.8)	(1.57)	10YR5/1 褐灰色	孔径0.3			
11	石製品	白玉	1	1	0.4	0.74	5YR6/1 褐灰色	孔径0.3			
12	石製品	白玉	1.1	1	0.6	0.21	7.5YR6/1 褐灰色	孔径0.3			
13	石製品	紡錘車	3.8	2.1	1.8	39.59	5Y6/1 灰色	孔径0.5～0.6			
14	石製品	紡錘車	4.1	2.3	2.4	59.86	7.5YR3/2他 黒褐色	孔径0.6			
15	石製品	紡錘車	4.4	2.5	2.7	73.86	10BG5/1 青灰色	孔径0.7～0.8			
16	石製品	紡錘車	—	[2.5]	(2.3)	(24.06)	2.5Y6/1 黄灰色	孔径 [0.6～0.7] P2出土			
17	石器	すり石	7.3	5.8	4	218.22	5Y7/2他 灰白色	正裏にすり面			
18	石器	すり・敲石	8.3	6.1	3.5	203.97	2.5Y7/1他 灰白色	下端部に敲打痕。正面にすり面			
19	石器	敲石	9.3	9.1	3.6	382.77	10YR6/1 褐灰色	縁辺に敲打痕			
20	石器	すり・敲石	12.6	6.8	5.5	561.46	10YR5/2 灰黄褐色	部分的に滑らか			

H3号住居址遺物観察表

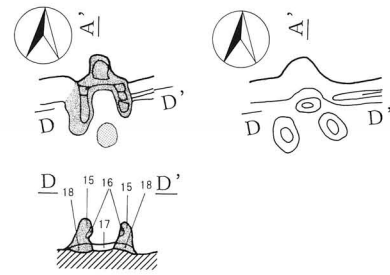
H4号住居址

遺構は1グリッドに位置する。規模は南北3.3m、東西4m、検出面から床面までの深さは最深で0.5mを測る小型の住居址である。平面形態は方形である。検出段階で、カマドが存在すると思われる北壁中央付近には多量の粘土が確認できた。床面は全体的に硬質で平坦である。住居址東側の壁際には浅い溝状の掘り込みが認められた。ピットは床面上で径40cm、深さ35cm内外を測る2個が確認できた。支柱穴と思われる。カマドは検出段階で粘土が確認された北壁中央付近に位置し、貼り床上部窪みに粘土を積み上げ構築されていた。また、周辺に多くの粘土が散在していた。両袖の上部には袖を覆うように粘土層が残存しており、壁際に煙道壁面と思われる焼け込みが認められた。粘土層は使用時からやや移動はしていると思われる状況であったが、天井に使用されたものと推察された。また、粘土層には煙道焼け込みの南に円形に近い壁面部と思われる焼け込み部分が存在することから、カマド上部に土器を設置する開口部である可能性が考えられる。住居の掘方は5～16cmの厚みでローム主体のにぶい黄橙色土が埋め込まれ、上面硬質であった。

遺物は土師器片が2点出土した。本住居址は出土遺物から古墳時代としたい。



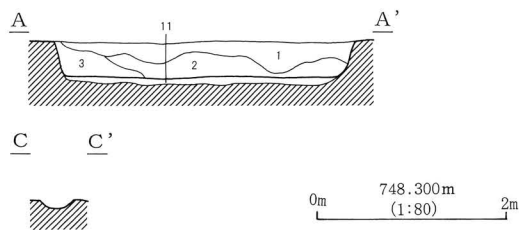
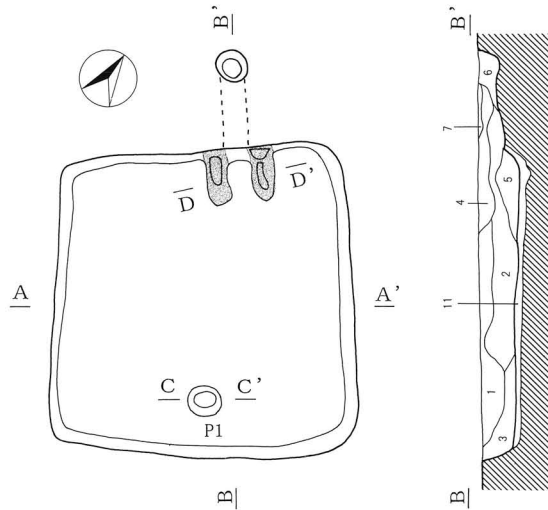
- 1 暗褐色土層(10YR3/3)軽石・炭化物・ローム粒・ロームブロック含む。
- 2 黒褐色土層(10YR2/2)ローム・軽石・炭化物含む。
- 3 褐色土層(10YR4/6)ロームブロック。



- 4 暗褐色土層(10YR3/4)ローム・軽石・炭化物・小石(1~5cm大)含む。
- 5 にぶい黄褐色土層(10YR4/3)ローム多・軽石・炭化物含む。
- 6 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石・炭化物含む。
- 7 黒褐色土層(10YR3/2)ローム・軽石含む。
- 8 褐色土層(10YR4/4)ローム多量・軽石・炭化物含む。
- 9 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・軽石・炭化物含む。
- 10 褐色土層(10YR4/4)ローム多量・ロームブロック・軽石含む。
- 11 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・軽石含む。しまりなし。
- 12 褐色土層(10YR4/6)ローム主体。軽石含む。しまりなし。
- 13 にぶい赤褐色土層(5YR5/4)粘土層・カマド天井部。
- 14 暗赤褐色土層(5YR2/4)粘土粒・粘土ブロック・炭化物多・軽石・ローム含む。
- 15 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/4)粘土層。カマドソデ。
- 16 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)粘土層。カマドソデ。
- 17 にぶい赤褐色土層(5YR5/3)灰・焼土・炭化物含む。
- 18 暗赤褐色土層(5YR3/3)粘土・ローム・軽石含む。
- 19 にぶい赤褐色土層(5YR4/3)粘土粒・焼土・炭化物含む。
- 20 にぶい黄橙色土層(10YR6/3)ローム主体。上面硬質。
- 21 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒・軽石・粘土粒含む。

H4号住居址実測図

H5号住居址



- 1 暗褐色土層(10YR3/3)ロームブロック・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層(10YR2/3)ロームブロック・粘土粒・軽石・炭化物含む。
- 3 暗褐色土層(10YR3/3)ローム多・軽石含む。
- 4 暗褐色土層(10YR3/4)粘土(焼土化)ブロック多・ローム・軽石含む。
- 5 暗褐色土層(10YR3/4)ロームブロック・軽石・粘土粒・灰少量含む。
- 6 暗褐色土層(10YR3/3)焼土化した粘土粒・粘土ブロック・炭化物・ロームブロック含む。
- 7 褐色土層(10YR4/6)煙道天井。
- 8 黄褐色土層(10YR5/8)粘土層・熱により硬質化。
- 9 褐色土層(10YR4/4)粘土層。
- 10 褐色土層(10YR4/6)粘土層。
- 11 にぶい褐色土層(7.5YR5/4)ローム主体。硬質。暗褐色土ブロック含む。

H5号住居址遺構・遺物実測図

遺構は53グリッドに位置する。規模は南北3.2m、東西3.1m、検出面から床面までの深さは最深で0.4mを測る小型の住居址である。平面形態は方形である。床面はほぼ平坦で全体的に硬質である。壁際の溝は認

められなかった。ピットは南壁寄りに1個存在したが、窪み状の浅いものである。カマドは北壁中央の貼り床上部の窪みに粘土を積み上げ構築されており、両袖及びトンネル状に掘り込まれた煙道・開口部が残存していた。石材は存在しなかった。煙道部は火床部の10cm上から径16~20cmを測るトンネル状の掘り込みで壁外80cmに至り、検出面で確認された円形の開口部に立ち上がる。開口部周縁及び煙道壁面・底面は熱によって焼土化していた。住居の掘方は全体に8cm内外の厚みでローム主体のにぶい褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕片が10点出土した。やや胴の張った形状と思われる。

本住居址は出土遺物から古墳時代としたい。

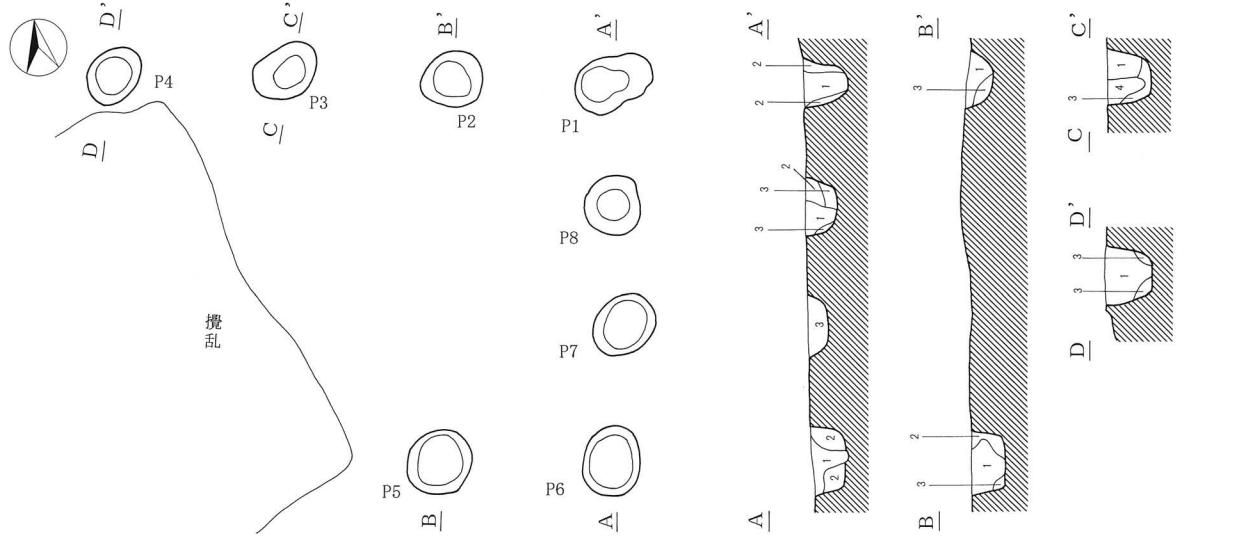
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)	備考
1	土師器	甕	-	-	(10.7)	口辺内外面横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁~胴部	良	7.5YR5/4 にぶい褐色	

H5号住居址遺物観察表

第2節 掘立柱建物址 (F)

遺構は調査区中央28グリッドに位置し、西側は近年の攪乱に破壊されている。3間×3間の側柱で、ピットの配置は、東西方向に長い長方形である。ピット間(ピット中央から)は南北1.3m内外、東西1.8m内外を測る。ピットの形状は円形または楕円形で、径0.55~0.8m、検出面からの深さは0.2~0.45mを測る。遺物は出土したが小破片である。

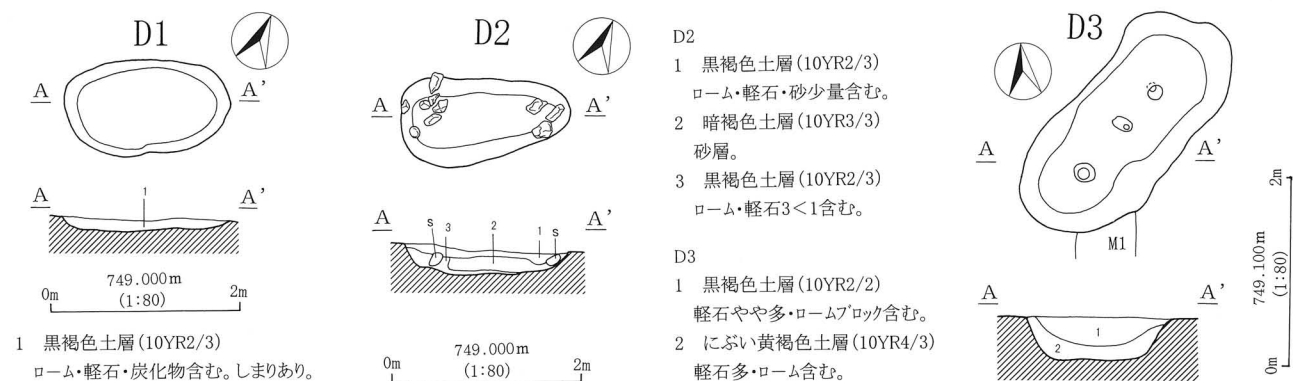
本遺構の時期は、周辺で確認された住居址の年代が古墳時代に限定され、住居址に囲まれた中央付近に位置することから古墳時代としたい。



- 1 黒褐色土層(10YR2/2)ローム・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層(10YR3/4)軽石やや多・ローム・炭化物含む。
- 3 褐色土層(10YR4/4)ローム主体。軽石・暗褐色土含む。
- 4 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石・炭化物含む。

F1号掘立柱建物址実測図

第3節 土坑 (D)



- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石・炭化物含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土層(10YR3/3)砂層。
- 3 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石<1含む。
- 1 黒褐色土層(10YR2/2)軽石やや多・ロームブロック含む。
- 2 にぶい黄褐色土層(10YR4/3)軽石多・ローム含む。

D1~D3号土坑実測図

本遺跡から3基の土坑が発見された。D1は15グリッドに位置し、規模は長軸1.7m、短軸1.0m、検出面から底面までの深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。D2は30グリッドに位置し、規模は長軸1.7m、短軸0.65~0.9m、検出面から底面までの深さは0.25mを測る。長軸の両端付近から0.1~0.2mの礫が多数出土した。D3は18グリッドに位置し、M1に切られる。規模は長軸2.8m、短軸1.2m、検出面から底面までの深さは0.45mを測る。底面には直列する径0.16~0.2mを測る3個の小ピットが存在した。形状から落とし穴の可能性が考えられる。

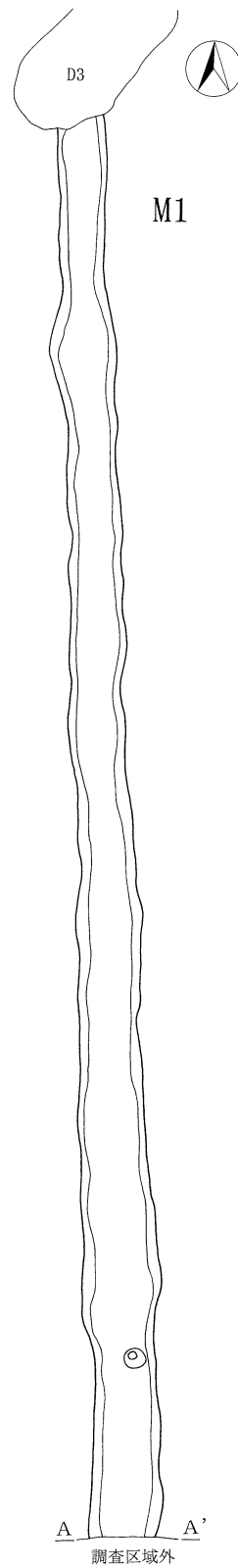
第4節 溝跡 (M)

M1号溝跡

遺構はD3を切り、18グリッド~91グリッドにかけて存在し、調査区外に至る。規模は長さ19.2m、検出面での幅0.9m内外、底幅0.4~0.7m、検出面から床面までの深さは最深で0.1mと非常に浅い。遺構の掘り込みは調査区埋土直下から掘り込まれており、年代の断定はできなかった。遺物は出土しなかった。調査区北端では僅かに掘り込みが認められる程度のため、調査区外の北側では溝の存在が僅かに判断できる程度の残存状況と考えられる。比較的新しい時代の溝跡と思われる。

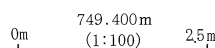
M2号溝跡

遺構は61グリッド~88グリッドにかけて存在し、H1を切り、45グリッド南端で消滅する。調査規模は長さ11m、検出面での幅0.7m、底幅0.3~0.7m、検出面から床面までの深さ0.1mを測る。遺構の掘り込みは調査区埋土直下から掘り込まれており、全体的に浅く、年代の断定はできなかった。遺物は出土しなかった。比較的新しい時代の溝跡と思われる。

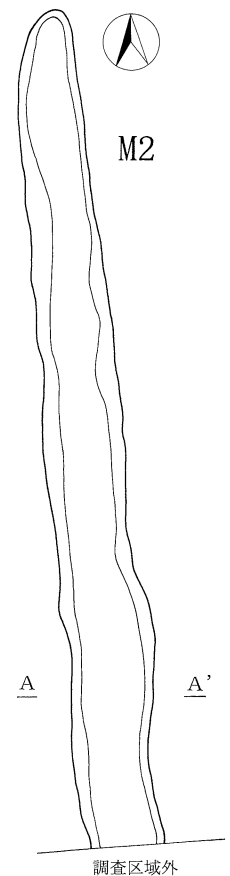
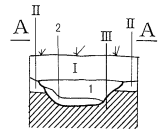


調査区域外

- I 表土 砕石主体の埋土(整地層)
- II 暗褐色土層(10YR3/3)表土とロームの中間層。
- III 明黄褐色土層(10YR6/6)ローム層。
- 1 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層(10YR3/3)軽石やや多・ローム含む。

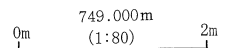


M1号溝跡実測図



調査区域外

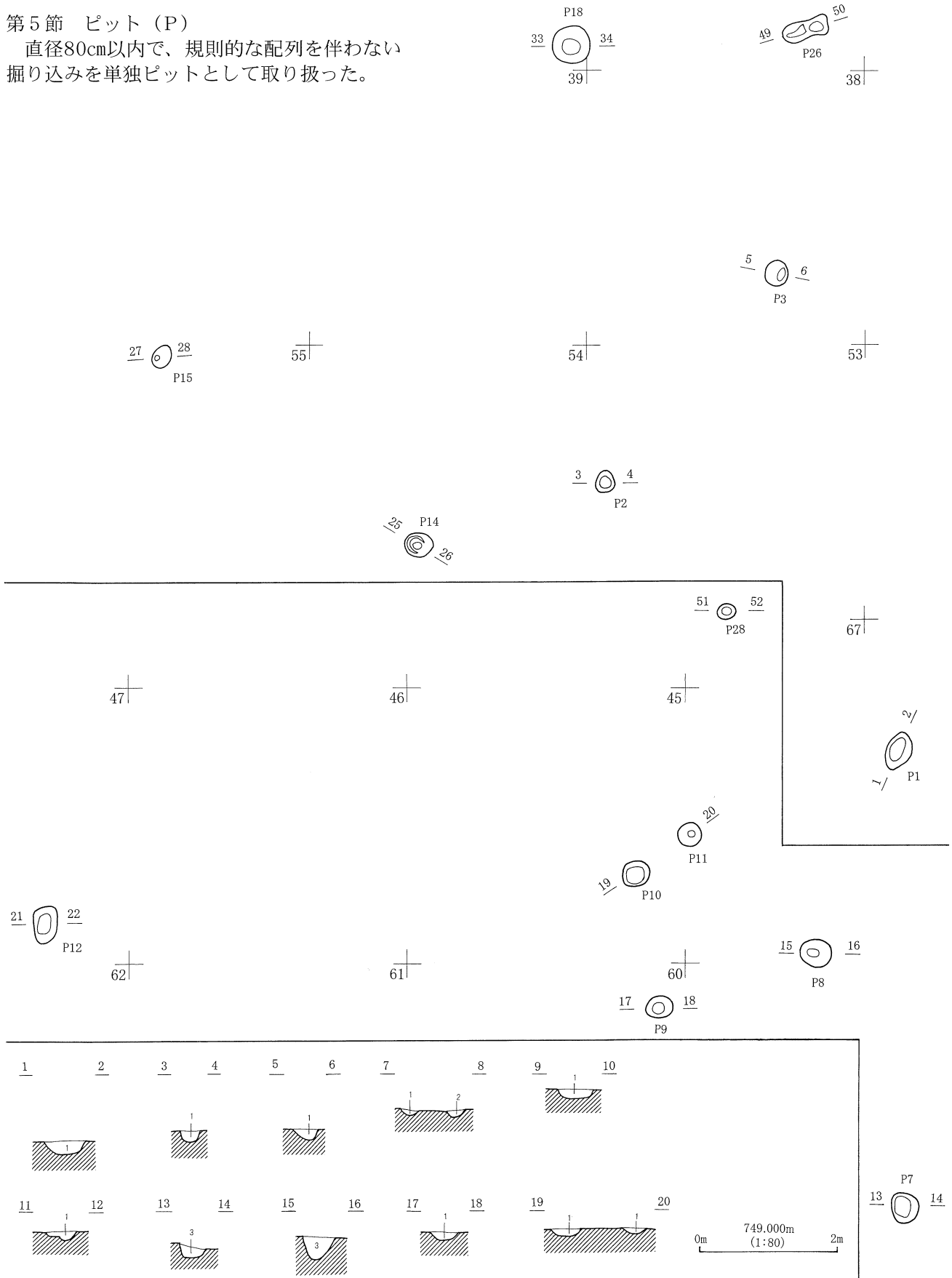
- 1 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒・軽石・炭化物含む。



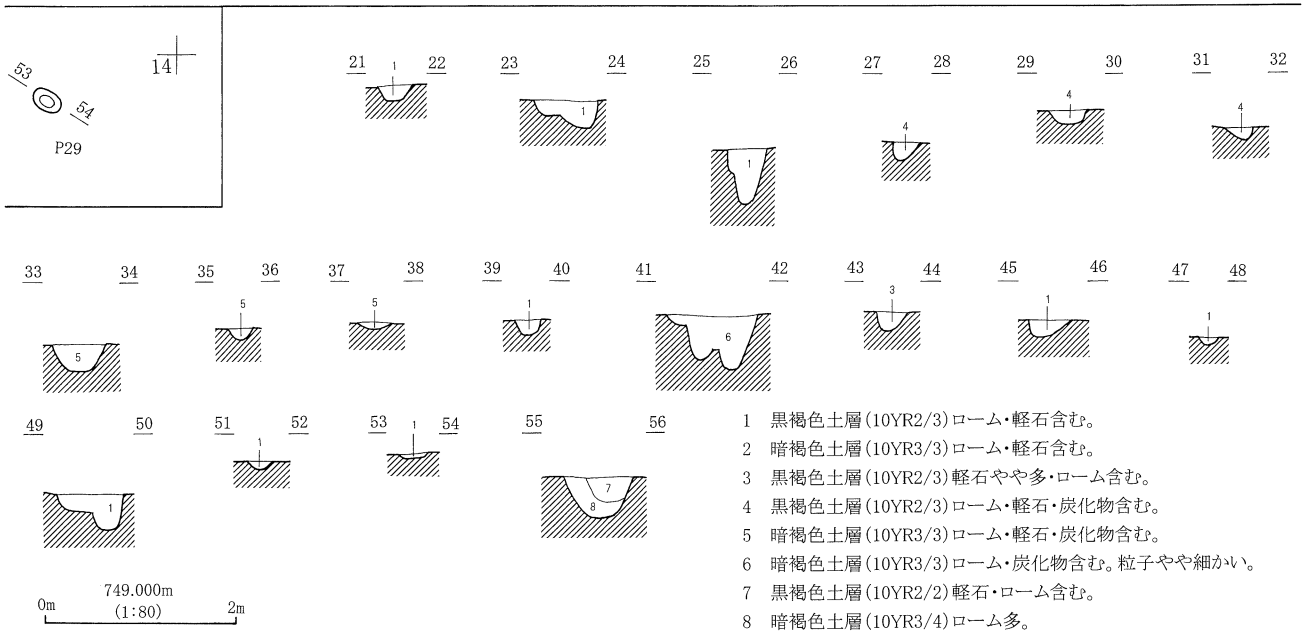
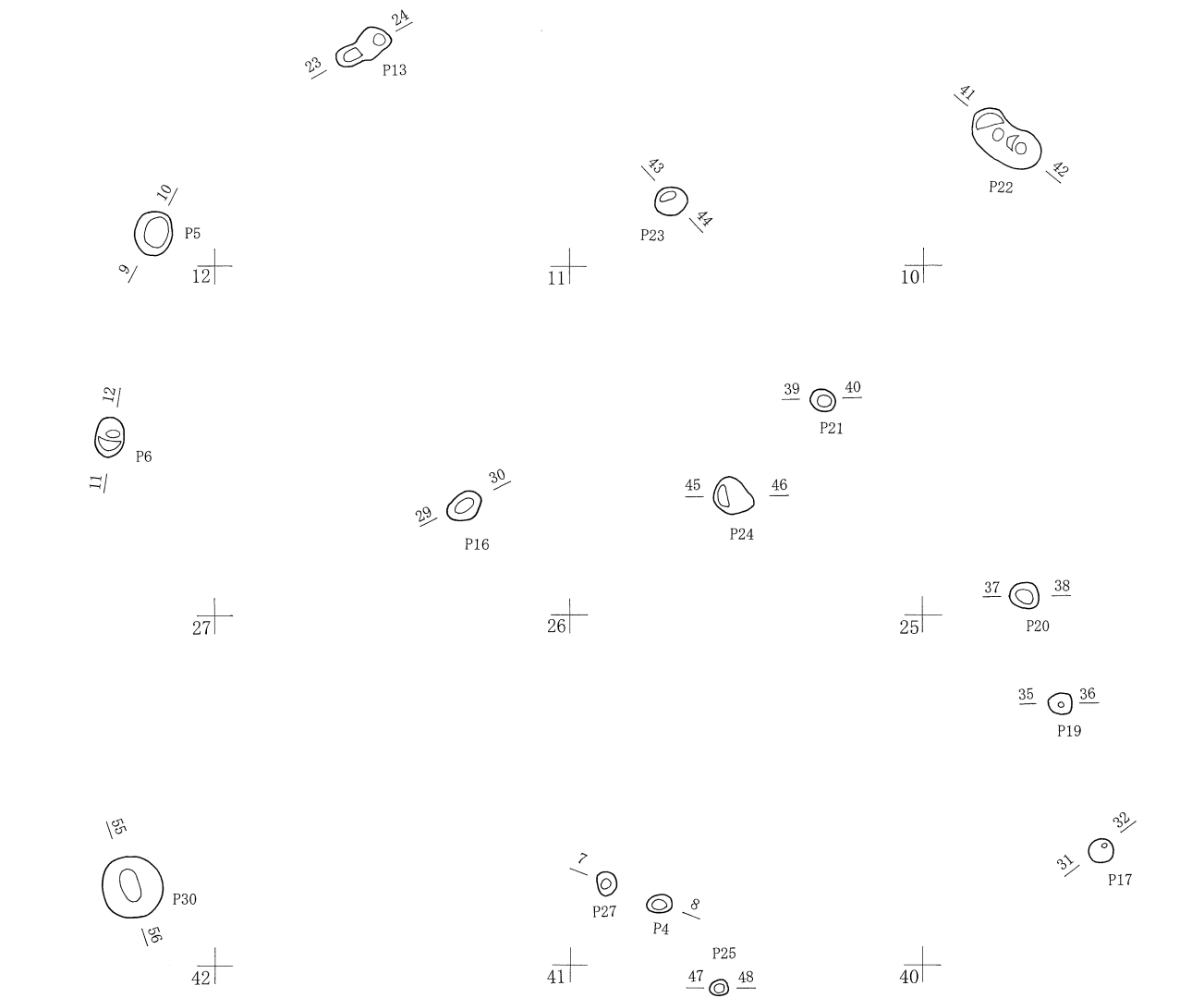
M2号溝跡実測図

第5節 ピット (P)

直径80cm以内で、規則的な配列を伴わない掘り込みを単独ピットとして取り扱った。



ピット実測図 (1)



- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石含む。
- 2 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・軽石含む。
- 3 黒褐色土層(10YR2/3)軽石やや多・ローム含む。
- 4 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・軽石・炭化物含む。
- 5 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・軽石・炭化物含む。
- 6 暗褐色土層(10YR3/3)ローム・炭化物含む。粒子やや細かい。
- 7 黒褐色土層(10YR2/2)軽石・ローム含む。
- 8 暗褐色土層(10YR3/4)ローム多。

0m 749.000m (1:80) 2m

ピット実測図 (2)



中金井遺跡群 下金井遺跡全景（東から）



中金井遺跡群 下金井遺跡全景（西から）



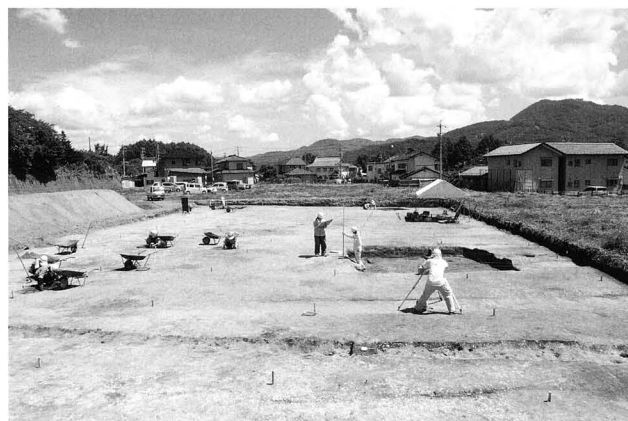
調査区全景（東から）



表土除去作業（西から）



調査風景1（西から）



調査風景2（西から）



H1号住居址全景（南から）



H1号住居址カマド煙道土器



H1号住居址カマド（南から）



H1号住居址カマド（西から）



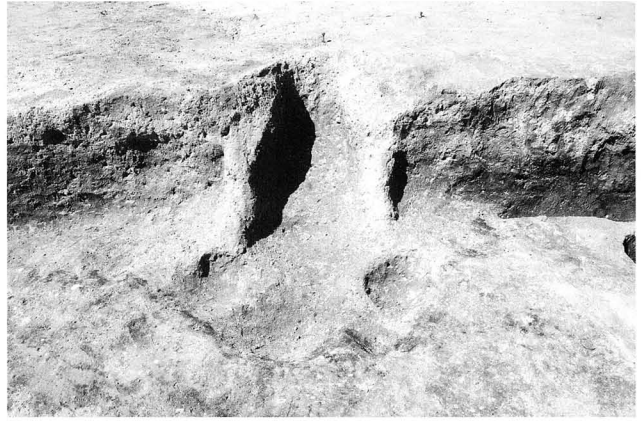
H1号住居址白玉出土状況 (NO17~19)



H1号住居址カマド東脇遺物出土状況



H1号住居址カマド脇ピット



H1号住居址カマド堀方 (南から)



H1号住居址堀方全景 (南から)



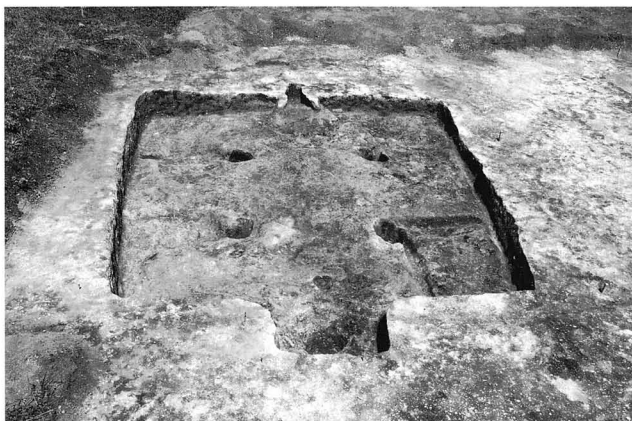
H2号住居址全景 (南から)



H2号住居址堀方全景 (南西から)



H3号住居址全景 (南から)



H3号住居址全景遺物除去後（南から）



H3号住居址カマド（南から）



H3号住居址カマド東脇遺物出土状況（NO1）



H3号住居址P1遺物出土状況（NO3）



H3号住居址（NO13）紡錘車出土状況



H3号住居址（NO14）紡錘車出土状況



H3号住居址堀方全景（南から）



H4号住居址全景（南から）



H4号住居址カマド天井粘土残存状況（南から）



H4号住居址カマド天井粘土除去後（南から）



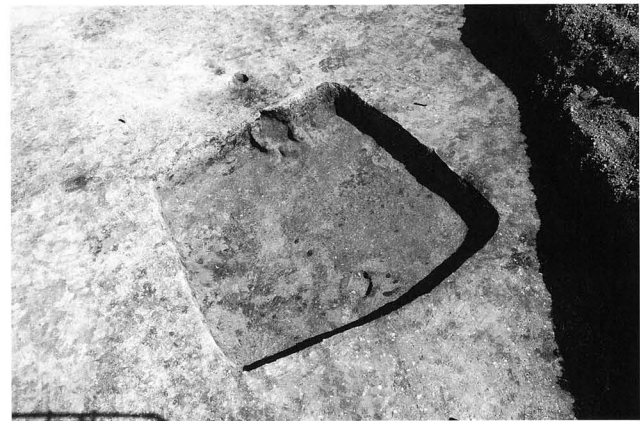
H4号住居址カマド（上から）



H4号住居址カマド堀方（南から）



H4号住居址掘方全景（南から）



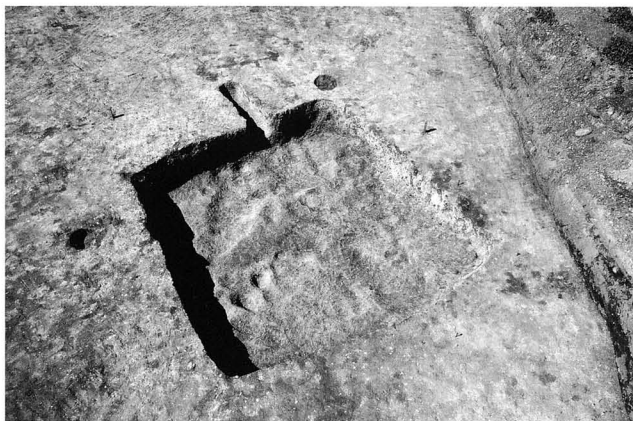
H5号住居址全景（南西から）



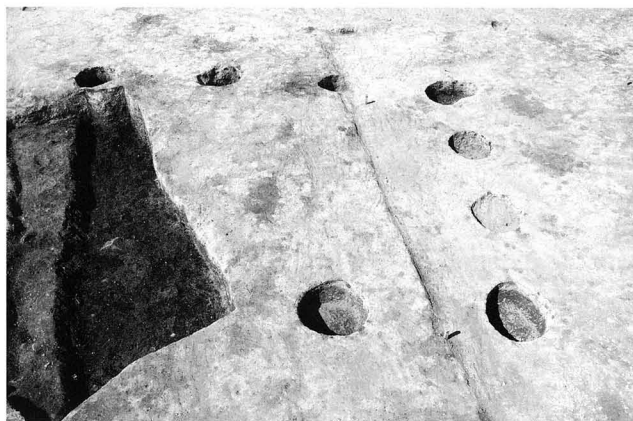
H5号住居址カマド（南西から）



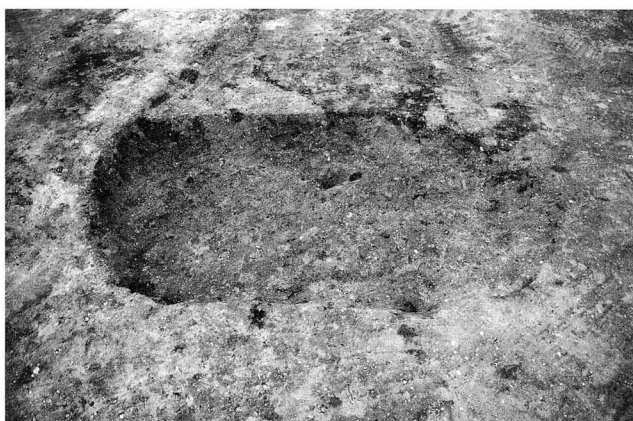
H5号住居址カマド堀方（南から）



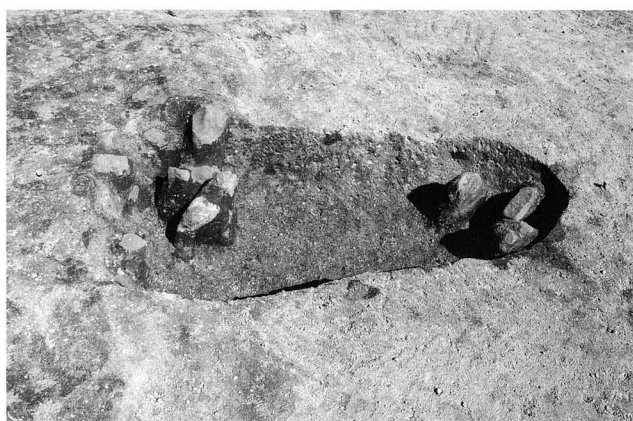
H5号住居址堀方全景（南西から）



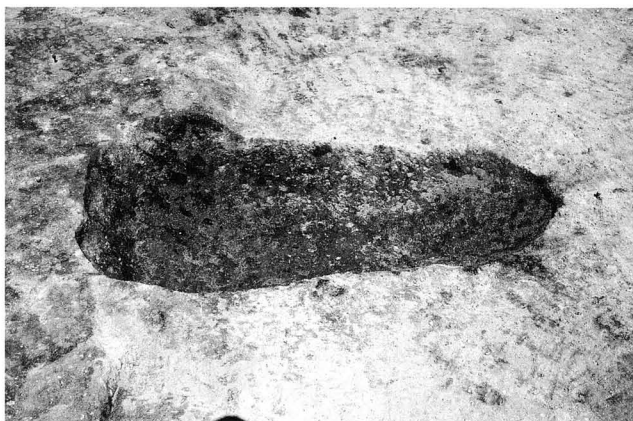
F1号掘建柱建物址全景（南から）



D1号土坑全景（南から）



D2号土坑全景（南から）



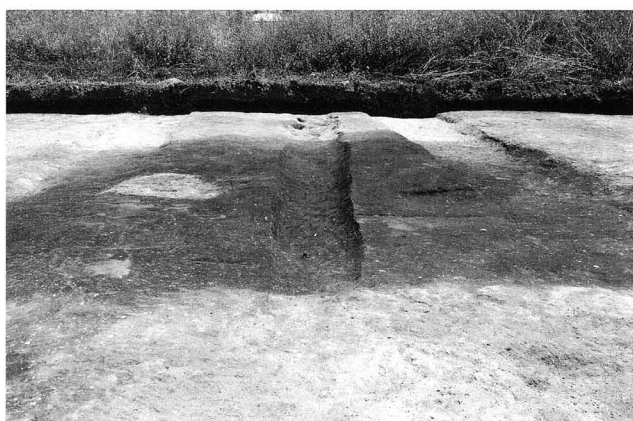
D2号土坑石除去後全景（南から）



D3号土坑全景（上から）



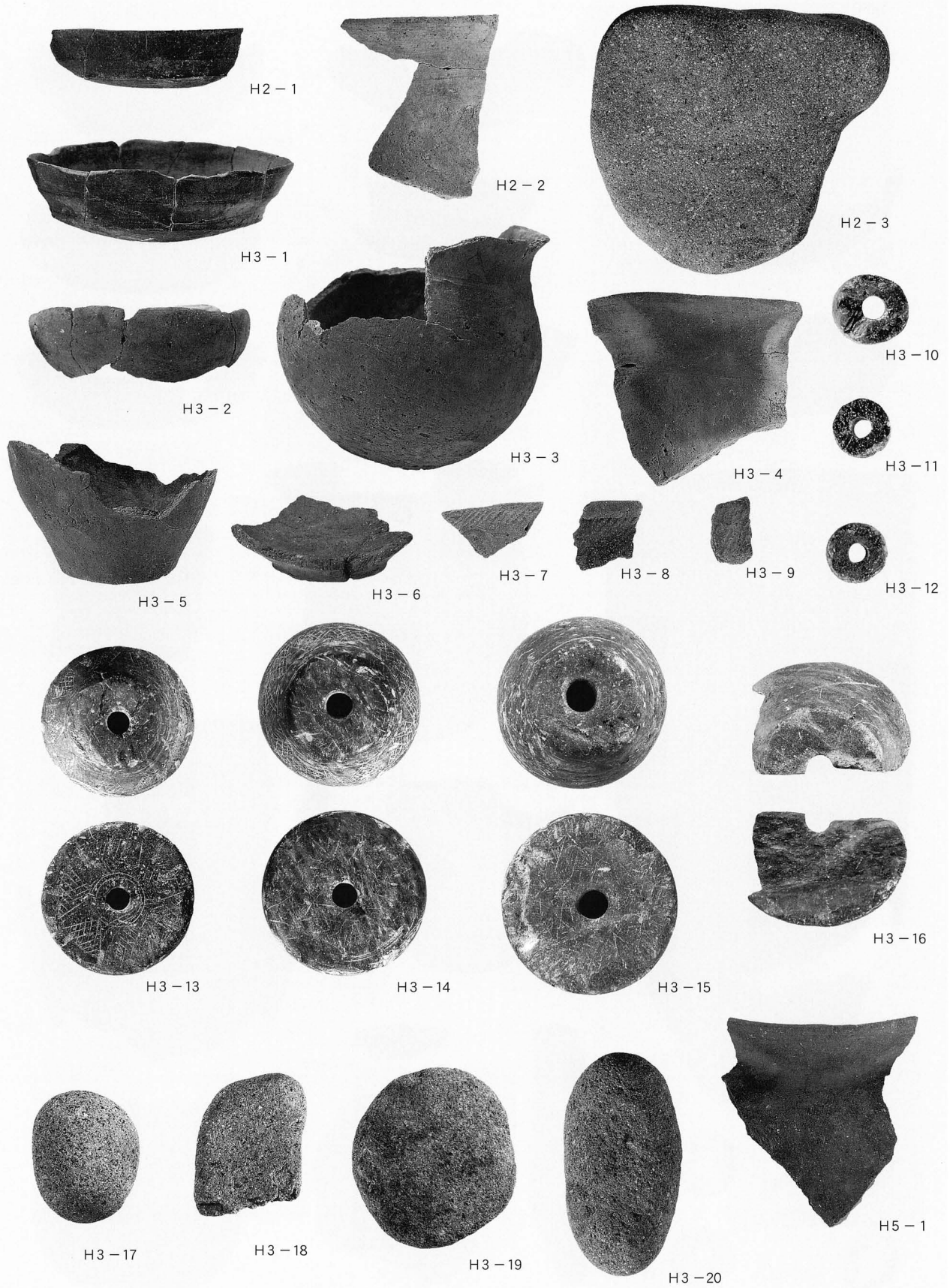
M1号溝跡全景（北から）



M2号溝跡全景（北から）



H1号住居址遗物



H2·3·5号住居址遺物

ふりがな	なかかないいせきぐん しもかないいせき							
書名	中金井遺跡群 下金井遺跡							
副書名	—							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第210集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成24年12月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
なかかないいせきぐん しもかないいせき	さくし おたい あざ しもかない	20217	12	36° 29' 36"	138° 29' 24"	20120806 ～ 20120830	1353.8	(仮称)小田井地区宅地造成工事
中金井遺跡群 下金井遺跡	佐久市 小田井 字下金井 719番地2							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中金井遺跡群 下金井遺跡	集落	古墳時代	竪穴住居址5、掘立柱建物址1、土坑3、溝跡2、ピット30		土師器、須恵器、石器・石製品、		古墳時代の遺構を中心とする集落跡の調査を実施した。	
要約	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に延びる雨水等の浸食によって形成された細長い田切り地形の台地上に展開する遺跡である。今回の調査対象地からは、古墳時代後期の住居址5軒等が発見され、ほぼ単独の時代構成の集落であることが確認された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第210集
中金井遺跡群 下金井遺跡
平成24年（2012）12月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
TEL0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司

